

令和5年度
「国際原子力人材育成イニシアティブ事業」

原子力施設の廃止措置を統括する グローバル人材の育成

令和6年3月29日

東京大学

(一財) エネルギー総合工学研究所

【目的】 戦略的な観点を持って廃止措置を推進していくスキルを持つ人材，すなわち，廃止措置に係る技術的な側面に加え，原子力利用におけるバックエンド分野の社会における重要性及びそれが与える社会的影響を理解している者であり，海外の良好事例を積極的に取り入れ，効果的かつ効率的な廃止措置推進を可能とする人材の育成を目的とする。

【課題概要】

(1) 戦略的観点を持つ廃止措置ゼネラリストの育成のための講義と実習

廃止措置全般にわたる知識及び戦略の構築並びにプロジェクト管理の習得を目的として，次の講義及び実習を実施する。

- ①廃止措置で必要な廃止措置技術に係ること
- ②戦略の構築に必須な特徴分析，環境分析，リソース分析に係ること
- ③状況の変化に対応するスキル（グレーデッドアプローチの適用）に係ること

(2) 国内視察

廃止措置を実感するために最も効果的である国内実施状況の視察を実施する。原子力発電所，核燃料サイクル施設等の廃止措置現場の視察を行う。

(3) 海外研修

海外研修として，先行する海外の廃止措置の状況視察及び現地技術者との廃止措置の戦略に係る事項について議論及び情報交換を実施する。

目標とする人材像

廃止措置に係る工学的な知識

- 原子力全般にわたる知識
- 廃止措置の特徴
- 廃止措置に適用する技術
- 廃止措置安全の考え方

廃止措置に係る社会科学的な知識

- プロジェクトマネジメント
- 社会分析技術
- 事業の最適化
- 経営戦力

廃止措置の戦略

グレデッドアプローチの適用

戦略的な観点を持って
廃止措置を推進していく
スキルを持つ人材

(1) 戦略的観点を持つ廃止措置ゼネラリストの育成のための講義と実習

2021年度 2021/11/19-23(4日間) zoom

参加者: 12名(大学院生7名・学部生5名)

2022年度 2022/7/15-18(4日間) 及び 8/26-27(2日間:短期コース) zoom

参加者: 計6名(大学院生4名・学部生2名)

2023年度 2023/8/23-26(4日間) zoom

参加者: 9名

埼玉大学 経済経営学専攻・博士課程

東京大学 原子力国際専攻・博士課程

京都大学 エネルギー変換科学専攻・博士課程

東海大学 応用理化学専攻・修士課程

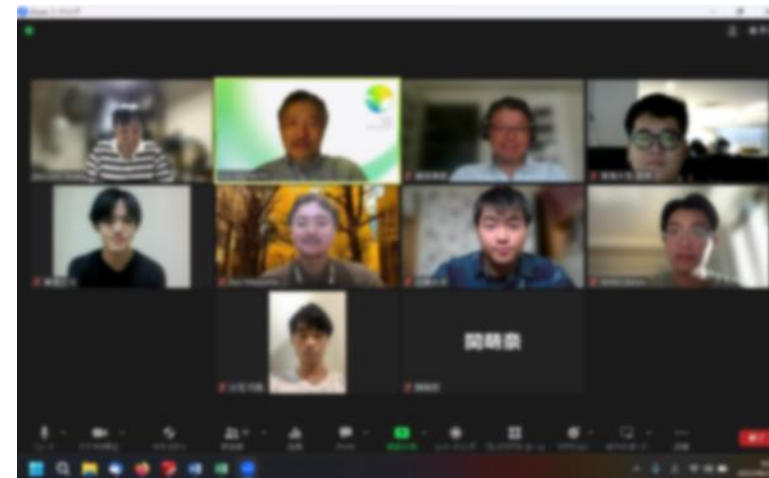
東海大学 応用理化学専攻・修士課程

東京工業大学 融合理工学系・修士課程

早稲田大学 生命化学科・学部4年

東海大学 応用化学科・学部2年

香川高専 電子情報通信工学専攻・専攻科2年



講義

廃止措置全般にわたる知識及び戦略の構築並びにプロジェクト管理の習得を目的として、次の講義を実施した。

- ①廃止措置で必要な廃止措置技術に係ること
- ②戦略の構築に必須な徴分析，環境分析，リソース分析に係ること
- ③状況の変化に対応するスキル（グレーデッドアプローチの適用）に係ること

→講義及び実習の実を上げるために，事前課題を課し，研修の予習を行うことを求めた

→講義及び実習の定着を図るため事後課題を課し，全員に提出を求めた。

実習

グループ実習として次の事項に取り組んだ。

- 国内の原子力発電所を想定して，「**廃止措置戦略の構築**」についてグループ学習を行い，研修生の考える戦略の構築を行った
- グループ実習は，それ自体を“プロジェクト”として捉え，“**廃止措置の戦略構築プロジェクト**”として実施
- 「廃止措置に若手人材を呼び込む戦略的プラン」「原子力施設由来の廃棄物を扱う新会社設立に関わる戦略」を題材として議論

(1) 戦略的観点を持つ廃止措置ゼネラリストの育成のための講義と実習

2023年度講義及び実習のスケジュール

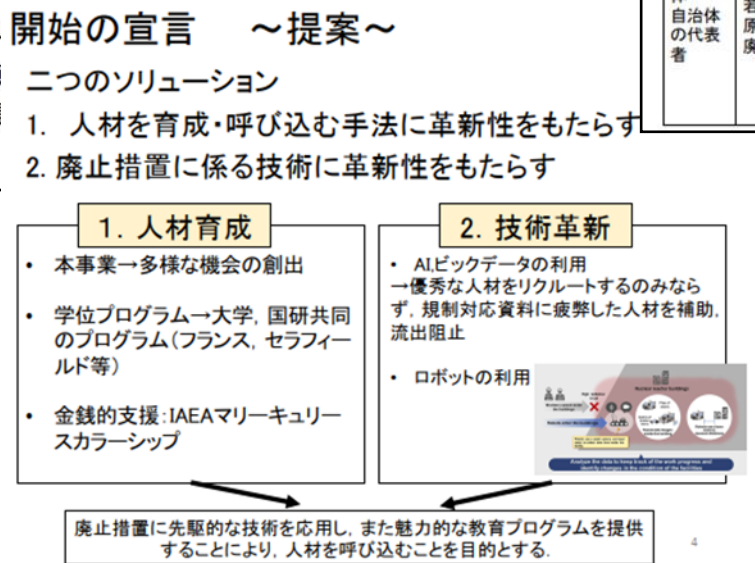
	1日目 8月23日(水)	2日目 8月24日(木)	3日目 8月25日(金)	4日目 8月26日(土)
9:00-10:30	廃止措置の概要	プロジェクト管理	課題演習 グループ学習	課題演習 グループ学習
10:40-12:00	廃止措置の安全	廃止措置 プロジェクト管理		
12:00-13:00				
13:00-14:30	廃止措置で 取り扱う情報	廃止措置の戦略	課題演習 グループ学習	課題演習 グループ学習
14:40-16:00	廃棄物の処理処分	廃止措置の最適化		グループ学習
16:10-17:30	課題演習(1)	課題演習(2)		報告会

(1) 戦略的観点を持つ廃止措置ゼネラリストの育成のための講義と実習

2023年度実習成果物の例

廃止措置に若手人材を呼び込む戦略的プラン

リーダ
資源
書



クロスSWOT分析

-廃止措置における教育活動-

		内部要因 技術者・研究者・政府・教育機関	
		強 Strength 若手・優秀な人材を獲得 教育水準向上 技術継承 人材の安定供給 競争相手が少ない	弱み Weakness 教育講座・実績が少ない 若手の減少 教育内容がおもしろくない 教育者不足
外部要因	機会 Opportunity 技術継承サイクル 国際交流 シンポジウム	・積極的な教育支援を行うことで、技術者の育成、技術継承サイクルが可能 ・国際交流で教育水準向上 ・若手にも活躍の機会 ・シンポジウムや学会の開催で若手の呼び込み	・学生向けの教育プログラム。実践的な内容 ・留学/海外研修で内容の充実化
原子力施設立地地域住民・家族・自治体・自治体の代表者	脅威 Threat 若手、人材不足 原子力に対する負のイメージ、廃止措置に無知	・原子力分野の教育水準を上げることで、世間からの注目が高まり、信頼性が向目が高まることで、廃止措置にも関心 ・世代間ギャップ。若手を込むプログラム	・内容が退屈であると、人材が集まらない。海外事

立案した教育に関する戦略

実践的な教育による国際的視野を有する技術者育成プログラムの実施戦略

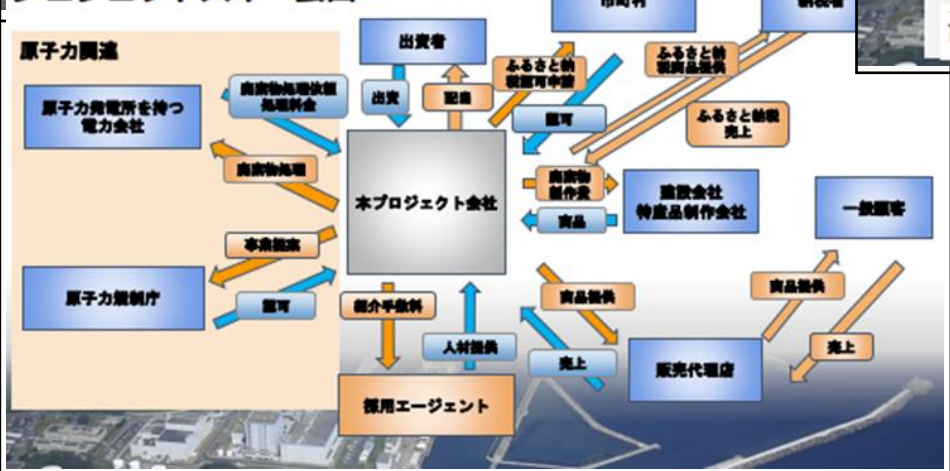
- 一 座学のみならず国際交流、学会・シンポジウムを通じた実践的な教育の実施(強み×機会)
- 一 若手が活躍することにフォーカスする教育(強み×機会)
- 一 一方、国内教育及び実績の不足が問題となる。国際的な協力という機会を駆使することで、実績ある海外からの実践教育を得ることができ、補填することができる。(弱み×機会)
- 一 原子力が有する負のイメージが戦略の妨げになる恐れがある。一方で、強みとして挙げている教育水準向上を実施することにより、風評被害を抑制することにつながり、世間的なイメージを改善することが期待できる。(強み×脅威)
- 一 実践的な教育プログラム、強みである国際交流、学会・シンポジウムを組み合わせることで若手の興味を引くことができ、人材確保につながる。
- 一 教育内容を充実させるため、教育者への採用方式を確立し、教育者の人材不足、教育の質向上。

(1) 戦略的観点を持つ廃止措置ゼネラリストの育成のための講義と実習

2023年度実習成果物の例

原子力施設由来の廃棄物を扱う 新会社設立に関わる戦略

プロジェクトスキーム図



クロスSWOT分析

	強み (Strength)	弱み (Weakness)
機会 (Opportunity)	<ul style="list-style-type: none"> 賛同する原子力発電所から独占的な廃棄物処理の業務を受注できる (81)。 原子力発電所由来のクリアランス以下の廃棄物を処分し地球環境に貢献する (81)。 南部鉄器と原子力発電所のコラボにより、地域特性を持った商品を提供する (81)。 原子力発電所由来のコンクリート資材を使った建築物で商機を得られる (81)。 スラッグの最終処分問題を解決する (81)。 	<ul style="list-style-type: none"> 競争他社と比較して価格差がある問題は、南部鉄器や安藤忠雄設計のハイブランド化で解決を図る (81)。 高い量のスラッグが発生した場合は、発電プラント関係者と知恵をひねり処分方法を検討する (81)。 工場立地問題は、電力会社に土地を借りるなどして解決を図る (54)。 従業員確保の問題は、南部鉄器等のハイブランドを活用し、優秀な人材を確保する (54)。
脅威 (Threat)	<ul style="list-style-type: none"> 反対派の妨害に対し、廃棄物一元処理を説得し協力者になってもらう (81)。 不買運動に対しては、コラボ関係者を通じ、その魅力を発信し理解を得る (81)。 顧客不足・販売代理店不足は、さとふるサイト、ふるなびサイト等をフル活用する (54)。 出資者不足は、社会的重要性を説得し解決を図る (54)。 	<ul style="list-style-type: none"> 反対派や不買運動問題は、反対派の動きを電力会社や国・警察等から従業員にあらかじめ情報入手し、共有対応し、従業員のロイヤリティを確保する (54)。 価格劣位・出資者不在・販売代理店不在問題は、顧客や協力者を探す中で漸次的に解決を図る (54)。 スラッグ問題は、自社での解決を視野に入れた自治体への支援・連携も図る (54)。

スクリーニングの理由
リスク登録簿：計54点以上 ただし影響度2以上、フェーズカテゴリーの管理層・影響度高以上

策定された戦略 (強み×機会)



(2) 国内視察

2021年度 日時:2021年12月27日(月)

参加者:13名

2022年度 日時:2022年9月12日(月)

参加者:5名

2023年度 日時:2023年9月11日(月)

参加者:9名

訪問先:日本原子力発電(株)

- 廃止措置実施中の敦賀発電所 1号機
- 敦賀発電所 放射性廃棄物貯蔵施設



2023年度敦賀発電所視察スケジュール

8

1. 発電所視察者:11名+敦研セ:1名 別表参照

2. 日程:2023年9月10日(日)~9月11日(月)

日時	スケジュール	場所	備考
[9/10] 17:00 (10)	敦賀駅待合室集合	バス	夕食は事前に済ませるか弁当購入下さい。
17:10 (40)	敦賀駅⇒敦賀総合研修センター移動	バス	
17:50 (10)	敦賀総合研修センター宿泊棟チェックイン ① 宿泊手続き・諸注意 ② スケジュール ご説明(8)	宿泊棟 談話室	
[9/11] 7:30 (50)	朝食 宿泊棟チェックアウト	宿泊棟 1F 食堂	
8:20 (40)	敦賀総合研修センター⇒原子力館 移動 【手の満回り】	バス	
9:00 (180)	発電所ご視察 ① 原子力館 入域手続き&概要説明(30) ② 敦賀発電所1号機(150) タービン建屋(3階, 1階) 原子炉建屋(5階, 4階, 1階, 地階)	PR館 敦1	身分証明確認 状況確認シート提出
12:00 (15)	原子力館ご視察 ・原子力館 クリアランス展示案内	原子力館	
12:15 (45)	昼食(弁当) & 休憩	原子力館	
13:00 (60)	発電所ご視察 ・ドラムヤード(固体廃棄物貯蔵庫) C棟	ドラムヤード	
14:00 (45) (5)	発電所員との意見交換 ・廃止措置室員 ・安全管理室員 東大研修アンケート(受講生)	原子力館	
14:50 (40)	原子力館⇒敦賀駅 移動 敦賀駅15:30着	バス	

(3) 海外研修

2022年度(2021年度はオンラインで実施した)

日時：2022年11月19日～24日

参加者：6名(男性4名・女性2名／21年度・22年度参加者より選抜)

長岡技術科学大学・博士課程、東京大学・修士課程、北海道大学・学部生
東京工業大学・修士課程、東海大学・学部生、東京都市大・学部生

訪問先：英国 ドンレイ原子力研究所、
ドンレイステークホルダグループ

1) 資料準備と準備会合

ドンレイ原子力研究所の技術者との情報交換及びドンレイステークホルダグループとの意見交換ため、10月初旬から11月中旬にかけて下記の資料を作成し、事前に送付した。

- ドンレイ原子力研究所：
“Issues of the disposal of RW in decommissioning
- focusing clearance - ”
- ドンレイステークホルダグループ：
“New Stakeholder Group (NSG)”



2) 視察と技術交換会

10

Monday 21 November

- D2003, Conference Room 40**
- 08:45 Welcome to site and safety briefing. Led by Mark Rouse, Managing Director. Tea/Coffee. *In attendance: Mac MacGill, Security and Resilience Director and Oakley Cundall, Executive Assistant.*
- 09:15 Mini-bus site tour led by James Gunn - tour to end at Prototype Fast Reactor (PFR). *In attendance: Alison MacKenzie and Lucy Mackay.*
- 09:45 Tour of PFR led by Graeme Dunnett, Head of Reactors. *In attendance: James Campbell, Project Manager.*
- D2003, Conference Room 40**
- 11:40 Presentation on major projects at Dounreay, their challenges and issues. Led by Becky Ruddy, Head of Fuel Cycle Area Decommissioning
- 12:50 Outline on strategy, planning processes and lifetime plan. Led by Craig Brown.
- 13:20 Outline of Dounreay socio economics and stakeholder management. Led by David Calder, Head of Sustainability and Socio Economics and Gail Ross, Head of Communications and Stakeholder Relations.
- 13:50 NDA overview. Led by Mark Crowther and Alan Mackay.
- 14:20 Students to present on Japanese situation on issues of the radioactive waste disposal and reducing waste in decommissioning. Tea/coffee. *In attendance: Alistair Ross, Head of Waste Operations; Alan Mowat, Waste Optimisation Manager; Kerryn Sievewright, Waste Specialist Technical Lead; Julie Morgan, Project Manager and Graeme Morgan, D3100 Compliance Manager.*
- 15:20 Discussion on similarities/differences between UK and Japan. *In attendance: Graeme Dunnett; Becky Ruddy and Jared Fraser.*

Tuesday 22 November

- Dounreay office, Orlig Street, Thurso**
- 10:30 Influence of the Dounreay Stakeholder group (DSG) on decommissioning and disclosure to the public. Tea/coffee. *In attendance: Struan Mackie, DSG Chair; Tina Wrighton, Stakeholder and External Affairs Manager; Davie Alexander, DSG Vice-chair and Socio Economic Sub Group Chair; Gillian Coghill, DSG Site Restoration Sub Group Chair; Peter Faccenda, DSG Socio Economic Sub Group Deputy Chair and Roger Saxon, DSG Site restoration Sub Group Deputy Chair.*
- 11:00 Students to present Japanese situation with Q&A.
- 11:30 Discussion on similarities/differences between the UK and Japan. Buffet Lunch.



- ✓ 現場を見ることができて、廃止措置が如何に大掛かりで複雑な作業であるかを理解できた。前に敦賀発電所の廃止措置を見学した時よりも、この点について実感できた。これは、実際に作業している従事者を見て話しを伺ったり、作業の体験をすることができたからだと思う。
- ✓ 技術情報交換会では、ドンレイの方々の熱意を感じた。マネジメントの一つである長年に渡る技術の継承について、ドンレイでは教育活動や技能実習にも力を入れているようだ。特に、大学院研修プログラムでは、ドンレイ地域外から若者が移ってくるようで、地域経済や人口減少などにも効果が期待されるようである。
- ✓ 研修に参加して廃止措置や処分事業に関する知見が深まった。現場を見ること、現場を考えることは大変勉強になった。修士論文研究では新型炉の研究開発を行っているが、原子炉の終わりを意識して概念の設計を行いたいと思う。企業で働くようになって、こうした意識を忘れないようにしたい。また、私たち学生を一技術者のように扱ってくれ、真摯な説明と質疑応答を行っていただいたことを嬉しく思う。
- ✓ 私はこの廃止措置研修に参加し、専攻分野とは異なるテーマを勉強することで、原子力分野への学びがさらに広がり、深まったと感じています。国内研修をはじめ、実際にその場所に行き、目で見て肌で感じるという行為は、机上での勉強の理解度をより深めてくれました。
- ✓ 活動が良いものだと思うからこそ、それを真似たものを日本に持ち込みたいという私たちの話を真摯に聞き、実直なアドバイスをくれるのだと考え、彼らが見自分たちの言動に持っている誇りや責任を強く感じた。信頼性や誠実性という言葉がリスクコミュニケーションに用いられて久しく、今回の渡航で本当の意味で信頼性・誠実性の大切さを理解できた。納得のいく行動や未来のために、しっかりと現実に向き合っているからこそ、理想と現実とのバランスをとった行動が彼らにはできるのだと考えた。

2023年度

日時： 2023年10月29日～11月3日

参加者： 7名(男性7名／23年度参加者より選抜)

埼玉大学・博士課程(経営学専攻)、東京大学・博士課程、東海大学・修士課程、
東海大学・修士課程、東京工業大学・修士課程、早稲田大学・学部生、香川高専・専攻科

訪問先： 米国 サンオノフレ原子力発電所、
スリーマイル島原子力発電所2号機

1) 資料準備と準備会合

サンオノフレ原子力発電所及びスリーマイル島原子力発電所2号機の技術者との意見交換ため、9月下旬から10月中旬にかけて下記の資料を作成し、事前に送付した。

➤ サンオノフレ原子力発電所

“A strategy for establishing a new company which handles extreme low-level waste originated from NFs”

➤ スリーマイル島原子力発電所2号

“Strategy for attracting Young Generation into Decommissioning Activity of Damaged Nuclear Power Plant”



2) 視察と技術交換会

Welcome to SONGS Decommissioning Tour Agenda 0930 to 1700 10/30/2023	
The Meeting Purpose:	
<ul style="list-style-type: none"> • Presentations on D&D and Waste Management activities. • Tour of SONGS Site. • Presentations by Tokyo Students. • Q&A. • Meeting Close. 	
Expected Outcome:	
<ul style="list-style-type: none"> • A safe and compliant tour of the SONGS Site and knowledge transfer among all parties. 	
Attendees:	
<ul style="list-style-type: none"> • Tokyo University Students, Professor, SDS, and EnergySolutions Staff 	

Time	Topic	Presenter
0930-1000	CPF Check-in & Locate to Conference Room	Mike Cuarenta & Katie Smith
1000-1015	Safety Message	Steve Fuller (Safety Manager) or Designee
1015-1030	Kick-Off Meeting	AJ Jahr (Waste Manager)
1030-1100	Radiation Protection – Protecting the public	Jeff Carey (SCE GTCC Project RP Manager)
1100-1120	Client Interaction	Steve Mannon (Program Manager)
1120-1140	Large Components	Pedro Olguin (Task Manager)
1140-1200	Engineering – Cold & Dark	Kevin Hicks (Engineer)
1200-1230	Clive Disposal Lifecycle	Brett Rogers (ES C)
1230-1300	Lunch	
1300-1400	Plant Tour	Shawn Davis (Radwa)
1430-1600	Student Presentation	Student Presentation

TMI2 Schedule, Nov.1, 2023

0930-1030 – Pre-Tour

Get through Security, proceed to OSB hand out PPE and give safety brief.

1030-1200 - Tour TMI-2 Control Room, Turbine Building, Plant Perimeter (depending on ongoing work)

1200-1245 - Lunch

1245-1600 - Presentations



- ✓ 現場視察では、建屋の海側部分がごっそりと取り除かれており、廃止措置現場のスムーズさを感じた。あのような大胆な廃止措置戦略を日本が取ることができれば、もっと廃止措置がスムーズになると感じた。
 - ✓ 現場では廃棄物が貨物列車に積まれている場面を実際に見せていただくことができた。広大な廃止措置の現場だからこそ、ルーチンワークの諸作業がシンプルになっているのではと感じた。例えば、笛を1, 2回吹くことで、北方向, 南方向に汽車が動くよう指示する等
 - ✓ SONGSでの研修で驚かされたことは、廃止措置の開始から一度も計画が変更されずに進んでいるということだ。鉄道が敷設されており、廃棄物の運搬のために用いられていたが、その敷設する場所などについては、廃止措置が開始される際に全て決定され、そのまま全て進行されているという。これは、「途中で計画を変更すると、ある人には伝わるかもしれないが、そのほかの人々に伝わらなかったときに、問題が発生する。多くの人々が関わる原子力発電所だからこそ、そんなことは行えない。」なるべく計画の変更を嫌う彼らは日本とは真逆だと感じた。
-
- ✓ 滞在先からスリーマイルに向かう途中、大きな冷却塔を遠くから見る事ができた。教科書では見たことがあった景色を間近で見ることができ、嬉しかった反面、歴史上の事実として扱っていたものが、急に「自分ごと」になったような気がして、少し変な気分になった。TMIのプラント敷地内は、SONGSよりも整頓されている印象を受けた。”事故があった原子炉”だからこそ、2度と過ちを繰り返さぬように、従業員の意識が再徹底されているのか？と解釈した
 - ✓ TMIのワンスルー型PWRの模型を見せていただいた。模型を使うことで全体概要を掴むことができたし、いまだに格納容器底部に高線量領域が残存していることが印象的であった。
 - ✓ 遠隔で作業を行うスペースが設けられており、ゲーム機のようなコントローラーとボタンが机に埋め込まれていた。日本にもこのような技術に強い企業が存在するので取り入れるべきだと思う。
 - ✓ 作業者のロッカーにALARAのステッカーが黒と赤と黄色で張られており、作業者に安全に対する行動を強く訴えかけていて、とても印象的であった。
 - ✓ 炉内の様子が遠隔でPCからいつでも観察できるようになっており、このようなシステムは極めて有用であると感じた

- ✓ 現地技術者からのプレゼンがあり、大変勉強になった。特に解体作業で用いる巨大なアームを使用後にそのまま落下させて廃棄するところには驚いた。議論としては、こちらから日本の廃止措置での廃材を利用し、南部鉄器とコラボする事業について説明した。南部鉄器などの商品では消費できる廃材が少なく、電車や飛行機などに対象を変えた方が良いという意見をいただき、とても興味深い内容であった。しかし、日本で公共の移動手段であるこれらに原子力発電所由来の廃材を用いることは難しい、ここに日本とアメリカの廃材に対する認識の違いがあると思った(アメリカが迅速に廃止措置を行える理由の一つと思う)。
 - ✓ 私たちの班では、「原子力施設由来の廃棄物を扱う新会社設立に関わる戦略」というテーマで発表を行いました。日本の廃止措置で大量の金属(鉄)廃棄物が出てくると、埋設する土地の余裕がないという日本の事情を踏まえて、再利用可能なレベルの鉄を再利用して利益を生み出すというビジネスプランを提案しました。南部鉄器などの具体例を挙げて新ビジネスを提案しましたが、日本の廃棄物量などを踏まえて現実的なアドバイスをしていただきました。ビジネスの実現性を考える上で、金属(鉄)の低レベル廃棄物の量などを踏まえて、提案した工芸品などの商品では消費効率が良くないのではないかななどの的確なコメントをいただけて非常に有意義な議論になったと感じました。
-
- ✓ 現地技術者との討論は極めて有用なものであった。今回は若い世代を上手く廃止措置に呼び込むことを対象としたが、アメリカでも同様に廃止措置への関心は薄くなっており、その中で上手く廃止措置に人材を呼び込むためのTMIならではの取り組みなどを紹介していただいたことが印象的だった。廃止措置の技術的な教育だけでなく、社会科学に関する教育も同等以上に扱っていることが印象的であった。特に、歴史学が参画し、世代を超えてこの事故を伝承しようとしていることが極めて印象的であった。廃止措置のように非常に魅力的でない現場だからこそ、長期的に活躍できるし、若者は活躍できるフィールドがたくさんあるとむしろポジティブに考えていることが極めて印象的であった。
 - ✓ 若手人材を呼び込むための戦略に関しては好印象であったが、アメリカも日本と同様に、多くの人々が廃止措置の知識が無い事が問題である。そのため、魅力的な戦略を提示する以前に、正しい知識を教育する機会をどう与えるかが重要になると考えた。

(4) その他

2024年3月26日 日本原子力学会春の大会(近畿大)にて報告と討論

1F01-07 原子力施設の廃止措置を統括するグローバル人材の育成

- | | |
|----------------------------|----------|
| (1) 背景と目的 | 岡本(東大) |
| (2) 人材育成プログラムの概要 | 田中(エネ総研) |
| (3) 原子力事業者としての関与及び育成事業への期待 | 和佐(原電) |
| (4) TMI2視察と議論より得られたもの | 横山(東大) |
| (5) SONGS視察と議論より得られたもの | 瀧波(埼玉大) |
| (6) ドンレイ視察と議論より得られたもの(1) | 橋本(東工大) |
| (7) ドンレイ視察と議論より得られたもの(2) | 地井(東海大) |



約50名の聴衆に報告を行うとともに質疑を実施

- ◆ 廃止措置の地元との連携
- ◆ 海外ステークホルダーグループの意義
- ◆ 廃止措置に興味を持つ学生を増やす方法
- ◆ 文系学生への人材育成の重要性
- ◆ 人材育成事業を継続する事の重要性

まとめ

- 戦略的観点を持つ廃止措置ゼネラリストの育成のための教材を作成し、講義と実習をおこなった。また、習得すべき事項の重要度を把握し、得られた知識の定着を目的として事前及び事後の課題を研修生に課した。
- 敦賀原子力発電所における廃止措置の現場を実際に視察することで、廃止措置に係る知識の理解を図った。
- 英国ドンレー原子力研究所、ドンレーステークホルダーグループ、米国サンオノフレ原子力発電所及びスリーマイル島原子力発電所2号機への海外研修により、海外の廃止措置現場を知るとともに、課題について現地技術者や住民と有意義なディスカッションが実施できた。
- 学会で報告と議論を行い、廃止措置人材育成事業の有用性や改善点を議論できた。現地訪問等の経験が重要であることを再認識できた。百聞は一見に如かず。
- アンケートの結果、研修生の満足度は高いものであった。

	2021年度	2022年度	2023年度	
研修実習満足度:	4.80	4.80	5.00	
国内視察満足度:	4.83	5.00	5.00	(5点満点)